

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市南小泉児童館
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 21,723人(前年度比 104.1%) 令和5年度 20,872人 令和4年度 18,924人
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 34,188千円 (34,143千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円) 《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
	()は前年度決算額
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシートで確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	31/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、こども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
子どもたちと地域をつなぐ、子どもたちの自立する力を育む、子どもたちの豊かな育ちを育むという基本理念に基づいて運営をしてまいりました。児童健全育成事業では、「ダンス！タイム」で子どもたちは毎回楽しんで練習しました。地域の少林神社秋季大祭では子どもたちが考えた言葉で観客の皆さんに挨拶し、元気にダンスを披露することができました。地域交流推進事業では、南小泉の歴史や文化に触れ、子どもたちが南小泉の良さを発見できるように「ふるさと探訪～陸奥国分寺薬師堂見学」「若林城見学」「保春院座禅体験」を行い、事前に仙台市文化財課による出前授業も行いました。地域の各所を子育て支援クラブや児童クラブ保護者、若林区内の小中学生からなるチャイルドボランティア「チャボ」の皆さんと一緒に歩いて見て回りました。自分が学んだことを「児童館まつり」で発表し、友達に南小泉の歴史を伝える経験もしました。「チャボ」の皆さんとは、一緒にものづくりや児童館まつり、運動あそびを行う連続企画を行い、互いの交流を深めました。地域のために活動する「チャボ」の皆さんから学ぶことで、子どもたちの自立する力を育てようと考えました。自分も人のために、児童館のために、地域のために役立ちたいという意識を持ち始め、実際に「チャボ」に入会することもありました。放課後児童健全育成事業では、児童館での過ごし方やルールについて話し合い、課題を解決する「こども会議」を行いました。子育て家庭支援事業では、土曜日にからだを動かして遊べる遊具を設定した「サタデーひろば」に家族連れで来館されたり、暑くて外遊びが出来ない時期の居場所として活用されたりしました。7月の「あそびのひろば」では新たにジュニアリーダーの中高生のバルーンアート、小学生のふれあい遊びの発表を行い、乳幼児親子との交流が実現しました。今後も児童館を通して、地域の世代間交流を推進してまいります。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
児童健全育成事業においては、スポチャレや体育館で遊ぶなど、定期的に運動遊びを提供し、運動遊びを通して心身の健康増進に努めている。また、「若チュウタイム」では花の植栽や七夕飾り作りなど、豊富な体験プログラムを提供している。異年齢による様々な集団活動を通して、社会性や主体性を育んでいる。 子育て家庭支援事業においては、玄関前にカレンダーを作成し、児童館とのびすく若林の行事を掲示して乳幼児親子が利用しやすいよう工夫しており、広報活動に積極的に取り組んでいる。また、のびすく若林や市民センターと連携して実施した「あそびのひろば」は、様々なコーナー遊びを通して小中高生と乳幼児親子が触れ合う時間となった。乳幼児の保護者が我が子の成長に対して見通しを持つきっかけになったり、参加者同士の交流の場になるなど、地域の関係機関と積極的に連携しながら、子どもと子育てを支える環境作りに努めている。 地域交流推進事業においては、地域の方々と交流しながら歴史や文化に触れる「ふるさと探訪」の実施回数を増やし、地域の歴史を児童館まつりで発表した。地域に対して親しみを持ったり、発表を通して達成感や自己肯定感を得る機会となった。 放課後児童健全育成事業においては、生活や遊びの課題についてこども会議で考えたり、行事などの活動は企画の段階からこどもの意見を反映させる機会を設けている。様々な発達の過程にある子どもが、それぞれ主体的に運営に関わることができるように工夫している。 また、職場内研修について年間計画を作成し、関係法令や児童館ガイドライン、放課後児童クラブ運営指針に基づいた施設の設置目的の理解や安全管理・危機管理、児童対応等の多様な内容で実施し、児童理解や児童館職員の職責について確認共有しながら職員の資質向上に努めている。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子ども若者局子ども若者支援部児童クラブ事業推進課